

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①多様な進路選択に対応できる教育課程を編成し、生徒の希望に応えられるように学習の機会を提供する。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①多様な進路選択に対応できる新しい教育課程の編成を完成する。</p> <p>②ICTを活用するなどして、主体的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。</p> <p>③生徒が自主的・主体的に企画・運営に取り組む学校行事になるよう支援する。</p>	<p>①生徒の進路希望・実績を参考に、選択科目を設定する。</p> <p>②生徒が主体的に取り組む授業にむけて、ICTの活用を含めた授業研究に積極的に取り組む。</p> <p>③生徒会や実行委員会の役員と連絡を密にして、生徒が自主的・主体的に企画・運営できるよう支援する。</p>	<p>①生徒の実態に即した選択科目を設定できたか。</p> <p>②生徒による授業評価</p> <p>③各行事における生徒及び教員へのアンケート結果の分析</p>	<p>①生徒の実態を踏まえながら、実態に応じた教育課程を編成することができた。</p> <p>②休業期間も生徒による主体的学習を進めるため、全ての教科でGoogle Classroomを作成した結果、ICT活用の促進に繋がった。</p> <p>③感染防止のため体育祭、球技大会は中止。放送による生徒総会、生徒会役員選挙を実施。多数の生徒が積極的に役員に立候補し、自主的、主体的に運営する体制ができた。</p>	<p>①新しい教育課程で学ぶ生徒や保護者にわかりやすく内容を説明する必要がある。</p> <p>②生徒の授業評価によると、1回目より2回目の方が当てはまる部分が増えており、引き続き授業改善に取り組む。</p> <p>③岸高祭の教員及び生徒アンケートをもとに、よりよい学校運営の模索と行事計画について検討し、文化祭を実施時期を9月に変更する。</p>	<p>①生徒の実態を踏まえ、多様な進路希望に対応した教育課程が編成できたので、次年度以降は生徒が何を学び、何を習得するかを明確にし、目的意識をもって取り組むことができるように、わかりやすく説明してもらいたい。</p> <p>②休業期間の対応で加速したICTの利活用を、コロナ収束後も継続し、さらに生徒の主体的で深い学びに繋がるように取り組んでもらいたい。今以上にICTの環境整備を国や県には要望する。</p> <p>③緊急事態宣言等の状況下でも、取りうる可能性・手段を探求し、安直に行事を中止せず生徒の高校生活における充足感の醸成に努められた。近隣他校が中止とする中、修学旅行を断行したのは英断であった。</p>	<p>①生徒の実情に応じた教育課程を編成できたが、適用年度の生徒に指導内容と身に付けてほしい力を周知する必要がある。</p> <p>②授業評価で向上が見られるが、更に毎時間の授業における目標の提示と達成具合について確認をすることが求められる。</p> <p>③次年度も引き続き感染防止に最大限の注意を払いながら行事計画を立てることとなり、併せてその状況下でいかに生徒の自主性・主体性を担保するかが課題である。</p>	<p>①令和4年度入学生に向け学校説明会やホームページ等を介して新しい教育課程について周知する。</p> <p>②多くの授業でICT利活用を更に推進すると共に、授業の中で生徒が振り返りをする時間を確保するなど、工夫を重ねる。</p> <p>③感染防止対策を取る中で、可能な限り生徒が主体的に運営・活動する機会を創出するための方策を検討する。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①礼儀正しさを意識して、安心・安全な学校生活を送れるよう支援するとともに、個に応じた教育相談体制の充実を図る。</p> <p>②自分自身に目を向け、学校行事や部活動を通して、奉仕や協調の精神の涵養を図る。</p>	<p>①日常生活指導とともに、生徒の実情に応じた教育相談体制の円滑な運営に取り組む。</p> <p>②生徒が自主的・主体的に取り組む部活動の運営を目指す。</p>	<p>①定期的な遅刻や頭髪指導などを実施する。</p> <p>①組織的なケース会議を実施し、学年単位での情報共有を進める。</p> <p>②入部率の上昇を目指して再入部期間の創設等も含め、生徒のニーズも考慮した指導を進める。</p>	<p>①全生徒に対する指導対象者の割合</p> <p>①必要に応じてケース会議を開催し、組織的に対応することができたか。</p> <p>②部活動入部率調査</p>	<p>①長期休業中に生活習慣が乱れた者もいて、頭髪指導対象者は増えたが、指導には素直に応じた。また、遅刻する生徒数が増加した。</p> <p>①必要に応じてケース会議を開いた。学年単位での情報共有も十分にできた。</p> <p>②部活動入部率が63.3%で昨年度と比較して2.5%増となった。</p>	<p>①生徒一人ひとりに根気強く継続した指導を行うとともに、新規の指導対象者が増えないように呼びかけていく必要がある。</p> <p>①引き続き情報の共有化に努め、生徒アンケートを参考にし、より良い形を模索していく必要がある。</p> <p>②臨時休業や教育活動の制限により、各部活動への入部を夏休み前まで遅延したが、今後も柔軟に対応していく必要がある。</p>	<p>①感染症予防として、基本的な生活習慣による体調管理が、必須となる。コロナ禍における安全安心な学校生活づくりとして、体調管理の重要性も含め、引続き根気強く生活指導を進めてもらいたい。</p> <p>①組織的なケース会議の実施は、ニーズに応じた教育相談体制の基本要件である。必要に応じて、分教室の相談支援機能（センター的機能）も活用し、個に応じた相談を推進してもらいたい。</p> <p>②感染防止と部活動は相反する面があるが、先生方や生徒自身が創意工夫を行い、前例にとらわれることなく対応をとった結果、厳しい環境下にもかかわらず前年比増となった実績は高く評価したい。</p>	<p>①定期的な頭髪指導による一定の改善が見られた。体調管理の徹底を図りながら、生活習慣の乱れによる遅刻をどのように減らしていくかが課題である。</p> <p>①情報共有やケース会議を実施するだけでなく、速やかな具体的な支援につなげるかが課題である。</p> <p>②映像による部活動紹介など、コロナ禍においても工夫して取り組んだが、入部率が微増となり、大幅な上昇にはならなかった。</p>	<p>①改定した「生活のしおり」を活用しながら、生徒一人ひとりに根気強く継続した指導を行う。</p> <p>①アンケートの活用や各学年に相談係（仮称）を置くなどして、適切な早期支援が実施できる体制を構築する。</p> <p>②どんな状況になっても部活動の楽しさをPRできるように、工夫を重ね準備を進める。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①自己理解を深め、進路意識を向上させて、生徒一人ひとりが自らの進路希望を実現できる進路指導の充実を図る。	①将来を考えさせるキャリア教育を実施し、目標を設定させて、その実現に向けて支援を行う。  ①組織的な進路指導体制を構築し、外部教育力を積極的に活用する。	①進路指導計画に基づき、進路説明会、研修会などの進路行事を計画的に実施する。  ①外部教育力を活用するなど、入試の変更点等を生徒・保護者に周知し意識を高める。	①進路行事を計画的に実施できたか。  ①主な大学への進学数・割合  ①生徒の進路満足度	①実施時期や一部内容に変更があったが、必要な進路行事を実施することができた。  ①大学への進学は約60%だった。  ①進路指導の満足度70%、体験的指導の満足度65%だった。	①年間を見通した有効で柔軟な進路指導を実施していく必要がある。  ①進路情報の収集と生徒への周知をより進めていく必要がある。  ①コロナを理由にするのではなく、ICTを活用するなど、可能な取組を検討していく必要がある。	①目標、取組内容(具体的な方策、評価の観点)、校内評価(達成状況、課題・改善方策等)、それぞれが的確に記載されていて、全体としてバランスの良い報告となっている。特に、「評価の観点」と「課題・改善方策等」の内容には納得した。難しいとは思いますが、それぞれの進路行事における「自己理解を深め、進路意識を向上させる」ことへの影響について少しでも触れてもらえるとありがたい。	①必要な進路事業を実施することができたが、3年間を通じた進路活動について、見通しが持てるように、生徒一人ひとりの進路に応じたわかりやすい資料(テキスト等)が必要である。	①各進路行事で活用している資料に加えて、3年間を通じて活用できる進路資料を作成し、自分の進路に見通しをもって計画的に準備を進めることができるようにする。
4	地域等との協働	①交流や協働活動を通して、生徒の社会性の育成を図るため、これまでの地域との連携を継続する。  ②学校運営協議会を中心とした、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	①保育園実習、西小との交流、地域との協働やボランティア活動を継続する。  ②学校運営協議会等で現状や課題等を共有するだけでなく、協議を深めることで、地域に開かれた学校づくりに取り組む。	①活動意義の理解を深め、自主的に協働できるよう、各活動において、きめ細かな事前指導・事後指導に取り組む。  ②定期的な学校運営協議会を開催し、協議を行うとともに、各部会にも参加する。	①様々な交流、協働活動について、生徒の事前指導・事後指導を丁寧に行い、生徒の充実した活動を支援できたか。  ②学校運営協議会を開催し、各部会に参加できたか。	① コロナ禍により、小学校とのクラブ交流・すこやか祭りは中止となったが、文化祭でのすこやかサークル作品展と短歌交流を行うことができた。また、マーマシのほら保育園において夏季休業中の保育実習が実施できた。見学会に替わり、学校紹介動画を作成し、中学生に岸根高校について知る機会を提供できた。 ②学校運営協議会を対面で1回、その他は書面開催した。	①コロナ感染症拡大防止を踏まえた上で、クラブ交流やすこやか祭りなどの交流活動・ボランティア活動を継続させていく必要がある。  ②新たな状況下での協議会の実施や可能な取組について、協議を深める必要がある。	①コロナ感染症拡大防止の観点から様々な活動が制限されてきた中で、文化祭でのすこやかサークル作品展、短歌交流、保育実習などを実施し、今後につなげることも大変意義深い取組をしてもらった。次年度も健康、安全を第一に考えた上で、無理なく実施できる活動を地域と共に考え、工夫して実施してもらいたい。  ②学校運営協議会を1回でも対面で実施できたことはよかった。	①感染症拡大防止の中でも一定の活動を実施できたが、生徒同士の対面での交流が困難であった。  ②対面での学校運営協議会を一度開催できたが、学校からの情報伝達の機会が少なかった。	①ICTの活用等を含め、対面での交流が難しい時でも実施できる行事の企画等を検討する。  ②対面での開催が困難な時に向けて、学校からのさらにきめ細かい情報発信を行う。
5	学校管理 学校運営	①環境に配慮した設備・備品等の整備・活用に取り組む。  ②防災意識の向上を図る。  ③人権についての知識を深め人権尊重精神の涵養を進める。	①環境に配慮した設備・備品等の整備・活用に取り組む。  ②防災意識の向上を図る。  ③人権についての知識を深める。	①設備・備品等の整備・活用状況を精査する。  ②防災訓練やDIG等の防災教室を実施する。  ③人権に関する研修を実施する。	①設備・備品等の整備・活用状況が環境に配慮されているものになっているか。  ②防災意識の浸透・深化の度合い。  ③効果的な人権研修が実施できたか。	①ICTチームを新設することでICT機器調達を中心とした教育環境の整備を行うことができた。  ②感染防止に配慮した防災教室を実施することができた。  ③自己研修型の研修により、効果的な人権研修が実施できた。	①ICT機器活用のための教育環境整備においては、環境にも配慮するとともに、感染防止にも配慮する必要がある。  ②防災教育においても効果的なICT機器活用の方法を追求することが課題である。  ③主体的な取組となる自己研修型の研修は、理解深化が期待できるため、研修テーマを精査しつつ継続していく必要がある。	①今回の状況下で、ICT利活用が進んだことは学校現場においては、有効な事案だったと思う。これを機会に、全教職員がより良い教育環境向上のために情報共有していく必要がある。 ②西小デイキャンプへの協力参加などのリアルな体験は継続しつつ、東日本大震災10年を機に、防災教育の方法の再構築に取り組むことを期待する。 ③人権はその裾野が広い。人権擁護委員として活動しているが、学校現場での人権研修は必須である。人を導く現場であるからこそ、その言動は真摯なものでなければならない。引き続き時間を有効に使った研修や共有などを続けてもらいたい。	①ICTチームを新設することで、機器の管理や環境整備、授業時の活用方法の紹介等を円滑に行えたが、チームの構成に課題が残った。  ②感染防止に配慮しながら防災意識の向上を図れる方法の模索が必要である。  ③机上研修は各自のペースに合わせて受講することができたが、全体で共有する機会が作れなかった。	①ICTチームが円滑に業務を行うできるように、構成方法を再検討する。  ②ICTを含め、感染防止を踏まえた中での効果的な防災教育の方法を検討する。  ③適切な研修テーマの設定とより効果的な研修方法を検討する。

